

## 「古代文字」を楽しむ

「書写好き」に

今号は、台東区立書道博物館に勤務されている、鍋島稲子先生の研究員としての日々の活動の中から、子どもたちが漢字や書に  
関心をもつようになるアイデアや、取り組みをご紹介します。

## 「みんなが楽しめる」「古代文字」

鍋島先生は、年に数回、小学校で講師をされることがあるそうですね。

鍋島 書き初めなどのいわゆる書写指導の他、漢字や書に親しみをもってもらうため、古代文字（三千五百年前の漢字）を使った授業を行っています。子どもたちの反応を見ると、古代文字は学年にかかわらず楽しめる題材なんだと感じます。

―そもそも、なぜ、古代文字を取り上げることにしたのでしょうか。

鍋島 まず、文字そのものに興味をもて

ることが大切ではないかと考えました。また、クラスの中には、習い事などで書の経験が豊富な子もいれば、未経験の子もいますし、すでに多くの漢字を知っている子もいれば、そうでない子もいます。通常の授業とは異なる、全員が同じスタートラインに立って楽しめる学習は何だろうかと考えた結果、この授業が生まれました。三千五百年前の文字だったら、どんなに先取り学習をしている子どもでもさすがに知らないでしょう（笑）。

―具体的には、どのように授業をするのでしょうか。

鍋島 はじめに、墨で書いた古代文字をいくつか提示します（下段写真）。そして、この古代文字が何を表しているのかを子

どもらっています。

実はここ数年、幼稚園や保育所からも出張講師の依頼があるんです。

―就学前の子どもたちには、古代文字は難しくないのでしょうか。

鍋島 漢字を全く知らない子どもでも、「山」「川」「子」などの象形文字でしたら、何を表しているのか当てることができます。絵を見ている感覚なんだと思います。知識や先入観がないので、素直なおもしろい意見が出るんです。古代文字の「川」を見せたとき、ある子は「何かが流れている」と言いました。「川」という言葉は出なくても、その文字が表すものをよく想像していると思います。ちなみに、うなぎ屋さんの子どもは、「うなぎが三匹泳いでいる」と答えました（笑）。もちろんうなぎではありませんが、古代の人々もそうやって生活体験に基づきながら漢字を考え出したんだらうね、という話をしました。

## 2 文字への関心を高める

―古代文字を扱った授業の中で、特に配慮していることなどはありますか。

鍋島 小学校でも幼稚園・保育所でも、その文字が何千年前にどこで書かれたものなのか、歴史的なことに必ず触れるようにしています。子どもたちがいちばん驚くのは、文字が「骨」に刻まれていたということ。なぜ、石ではなく骨だったのか、子どもたちから疑問の声が上がります。そこで、当時は占いに使うために、神聖なもの（骨）に文字を彫っていたという話をします。書道博物館にある甲骨文字のレプリカを持参して見せると、子どもたちは興味津々です。

教科書（『書写』六年P20～21）にも、「文字の歴史」について取り上げているページがありますね（次ページ※2）。紙面にもあるとおり、最古の文字は骨に刻まれていましたが、二千年前は金属に替わります。先祖をまつるための祭器に文字を表す必要があったんですね。その後、石に文字を彫るようになりました。時代とともに、文字を記すための素材も変化を遂げてきたわけです。このような歴史的

※1 ワークシート

―漢字の成り立ち― 名前

みんなが使っている漢字は、長い歴史の中で少しずつ形を変えながら完成しました。昔の漢字から、今の漢字がわかるかな？

| 約三〇〇年前 | 約二〇〇年前 | 約一〇〇年前 | 今の漢字 |
|--------|--------|--------|------|
| 𠂔      | 𠂔      | 𠂔      |      |
| 𠂔      | 𠂔      | 𠂔      |      |
| 𠂔      | 𠂔      | 𠂔      |      |
| 𠂔      | 𠂔      | 𠂔      |      |
| 𠂔      | 𠂔      | 𠂔      |      |

▲台東区立金竜小学校での授業の様子。  
耳を表す古代文字について解説している鍋島先生。

書道博物館では、子ども向けのイベントなどを開催しているそうですね。  
**鍋島** 毎年夏休みに、キッズセミナーを開催しています。私が学校に行くときは、甲骨文字や青銅器のレプリカしか持ち出せませんが、博物館に来てもらえれば、本物を間近で見てもうることが出来ます。でも、ただなんとなく見るのでは印象に残らないと思うので、昨年は、「漢字の動物園」と名付け、動物を表す漢字の変遷を展示しました。動物を表す漢字は、動物の全身をかたどったもの、顔のみをかたどったもの、特徴を強調したものなどさまざまです。子どもたちに、「甲骨文字の中から好きな動物を探そう」と声をかけると、みんな、漢字の変遷と甲骨文字を見比べながら、楽しそうに鑑賞していました。興味をもつきっかけをつくることが大切ではないかと思っています。  
 書道博物館というと、専門的で敷居が高いイメージがあるかもしれませんが、

## 4 気軽に楽しんでもほしい

なので、書の一回性をぜひ味わってほしいと思います。



▲漢字の成り立ちについて解説する鍋島先生。



▲うちわ作りのキッズセミナーの様子。好きな古代文字を書き、うちわを作る。



### 台東区立書道博物館

■入館料 一般 500円(300円) 小・中・高校生250円(150円)  
 ※( )は20人以上の団体料金  
 ■開館時間 9:30～16:30 (休館日は月曜)  
 ■電話 03-3872-2645  
 ■アクセス JR鶯谷駅から徒歩5分  
 ■HP <http://www.taitocity.net/zaidan/shodou/>

東京都台東区にある書道博物館は、洋画家であり書家でもあった、中村不折(一八六六―一九四三年)が収集した、書道史研究において重要な資料を収蔵している専門博物館です。  
 紙に書かれた書だけでなく、刻まれた甲骨文字や、石碑に刻まれた力強い隸書や楷書を見れば、漢字や書への関心がより高まることでしょう。

## 書道博物館へ行ってみよう

外国からのお客様は、わりあい気軽に訪れてくださっています。書の体験なども、外国人のほうが純粋に楽しんでいるように思います。日本の子どもたちにも、

もつと書を身近に感じてもらいたい、楽しんでほしいですね。そのための普及活動も、私も積極的に行っていきたいと思っています。

### もっと知りたい

## 文字の歴史

私たちがふだん使っている文字は、いつ、どこで生まれたのだろうか。

三千年以上前

### 漢字の誕生

漢字は中国で生まれた。うらないに使うために、動物の骨などに文字をほったのが、始まりとされる。

### 漢字の伝来

日本には、もともと日本語を書き表すための文字がなかった。漢字が中国から伝わると、漢字の音を借りて、日本語を書き表すようになった。

日本で出土した最古の漢字



最古の漢字



甲骨文



漢字は、現在世界で使われている中でいちばん古い文字なのです。

授業後の子どもたちの反応はどうですか。  
**鍋島** 授業の数日後に、担任の先生からお手紙をいただいたことがあります。学級文庫に『漢字のなりたち』という本が置いてあり、それまでは誰も見向きも

しなかったのですが、古代文字の授業の後、みんな競って読むようになったそうです。自分の名前について調べたり、新しい漢字を習うと確認したり。四十五分の授業では、扱える内容に限りがありますが、このように漢字への関心が高まり、楽しんでもらえているのかと思うと、とてもうれしくなります。

## 3 やり直しができないからおもしろい

ところで、小学校の書写授業では、プラスチックの硯など、扱いやすさを重視した用具をよく見かけます。趣がないようにも思いますが、先生はどのようにお考えですか。

**鍋島** もちろん用具からきちんとそろえるのが理想ですが、日常的に墨と筆を使うわけではないですから、時代に見合った形で簡素化されるのは致し方ないですね。四十五分という限られた時間や、子どもの年齢を考えると、用具の片づけを楽にしないといけないのも分かります。プラスチックの硯は軽いですし、洗いやすいのもよい点です。用具を軽視するというよりも、みんなが書に親しみやすいようハードルを低くする、という考え方にしてはどうでしょうか。

でも、便利なものを使ったとしても、墨と紙は大事にしてほしいと思います。最近では、洋服に付いても落とせる墨などがあるようですが、書は消せないところに緊張感やおもしろさがあるものです。やり直しができないから、書を書くときは自然と真剣になるわけです。墨汁でい